

# イタリア保育

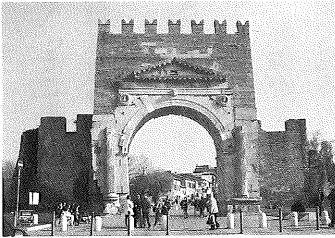
おもいきって

## 参観記 (2)

### 「園への両親の参加」 エミリアローマニア州リミニ市

金澤妙子  
(大東文化大学)

勤務先の海外長期研修制度で、私は今、イタリア・エミリアローマニア州リミニ市に、二〇二二年四月から一年間の予定で滞在している。七年前に五か月間の短期海外研修を同州ボローニャ市で行った際、当地訪問を勧められたことがきっかけである。本連載ではリミニ市を中心に、他市の保育も紹介していく。今号も、リミニからのレポートである。



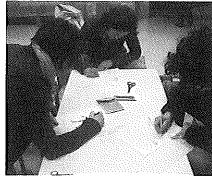
▲紀元前27年アウグストゥスの門

ラボラトリー・コンジェニトリ  
Laboratorio congenitori  
(両親との作業/以下、文中ラボと略記)

二〇二二年四月～六月末私が参観した保育園には、3・8か月、15・20か月、21・26か月、27・32か月の四クラスがあった。21・26か月クラスの参観時、保育者が「今晚八時半からラボがあるけど、来る？」と言うので、もちろん見せてもらうことにした。

16時、子どもがみんな帰って、保育者も私もひとまず家へ。20時45分に園に着くと、二人の保育者と、このクラスの担当の アウシリア Ausiliaria (食事と掃除を軸に保育者を助ける)、六人の母親がいた。母親たちは二

人組になって絵本の絵を描き写している。この園のプロジェクトは「生活習慣の自立」。このテーマのもと、発達や年齢を踏まえ各クラスでさまざまな試みをしてきた。この絵本の語り聞かせもその一つだった。21時05分、箱を抱えてもう一人登場。しばらくすると、アウジリアーリアがリングのタルトと飲み物を運んできて、しばし談笑……。



このクラスは、プロジェクトとして当番活動を入れていた。午前のおやつの時、ボウルに入った果物と5cmほどの使い捨て容器の底に（傾けてもこぼれないように）2cm弱入った水を配る。園の壁面には、昼食メニューを張るドキュメンテーション。これも当番の仕事だ。その前で、飲み物を手に、保育者が母親に日ごろ子どもがどうするのかを説明している。別の所では、「今日うちの子、当番だったんですよ。上手にできたよって言ってたわー」と保育者に話している母親。「当番よ」と言われてもぼうっととしていて、私は、意味がわかっているのかな？ この年

齢ではどうなのかしら、と違って参観したが、母親の言葉に、子どもの内面は違っていたのかもしれないと思った。この日、子どもの輪の中から出され、椅子に座らされる罰を受けた子がいた。今日はこんなことがあって、とても強く叱ったのと、保育者は母親に説明していた。こうして集まる直接の目的とは別に、親は園でのわが子の姿を、保育者は家庭での園児の姿を知る機会になっているようだ。

一休みして作業を続け22時30分、一人帰ったが、ほかの人は子どもの話をしている。手を洗いに行き、その先のトイレに置かれた椅子と本、そこで本を広げている子どもの写真が子どもの目の高さに張っているのを見て、しゃがみ込み、「ここで本を読んでいるのね」と本を開いたりしている。手洗い場にわが子が手を洗っている写真を見つけ、「あー、フランチー」と叫んでいる母親もいる。23時近く、「また明日！」と帰っていったが、片付けを手伝い、23時過ぎ、私が園を出ると、外には四、五人の母親が「いっつもママ〜って言ってるわ」などと立ち話をしていた。

## 現場での話し合いで

「保育者が家庭にプロジェクトの内容を知らせる。年間を通して同じテーマなので、家では、園でやっていることがわかる」。ある保育者は、プロジェクトについてそう説明した。協力してもらいやすい素地はあるかもしれない。だが、母親たちはこうした集まりを、本当はどう思っているのだろうか。市役所のコーディネイナメント部署に所属し、上司・調整役として回って来る コーディネイナトリージェ コーディネイナトリージェ を交えて保育者と話していて、親と協力して子どもを育てていくことが親を育てていくことにもなるという話になった。私・保育園はほとんどの母親が働いている。安全に預かって返してくれさえすればいい、夜集まって作業するのは嫌だという親はいないの？ コーディナトリージェ・イタリアでも保育園は働く親のためにあったが、今、少し状況が変わってきている。教育に関して力のある人が、子どもは両親が育てるものだという発言をしていて、親の意識もそ

ういう方向へ動いている。私たちは、その支援者。保育者（3・8か月クラス担当、50歳代半ば）..ほんとは年に少しだけよ。あの日をつくるのは、とても難しい。年度の初めに両親の代表を決めるの。園からの連絡や情報伝達はその人たちからしてもらおう。

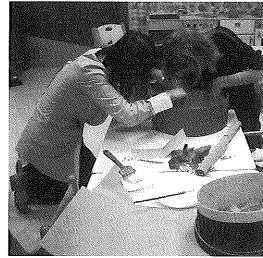
私..手を挙げてくれる人はいる？

保育者..すぐに自分からということはないわね。「誰かやってくれらるとうれしいわ...」とは言うけれど、絶対に強制はしないのよ。「どう？」と勧めたりもするけれど、母親たちは「んー」と尻込みする感じね。でも辛抱強く待っていると、誰かが申し出てくれるの。今まで、決まらなかったことはないわ。中にはラボでほかの両親と知り合いたいという親もいる。これがきっかけで、チャット、メール、フェイスブック、電話などで交流している人もいるわ。うちのクラスのママたちはラボで集まるのをうれしいと言っている人もいる。全部じゃないわよ。でも、同じ乳児を持つ親として悩みを共有したり、例えば野菜が嫌いな子にどうやって食べさせたらいいかと

か、情報交換しているわ。

## 幼稚園でも

幼稚園ではプロジェクト「物語る」のもと取り上げた各クラスの題材（本誌前号参照）を、保護者がミックスして新たなストーリーを作ったそうだ。台本を書き、配役、舞台監督・演出、衣装係などを分担し、ラボでは、衣装合わせや舞台（庭だが）練習をしていた。私はこの日、朝から園

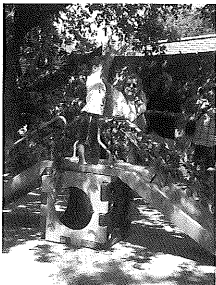


に出かけ、一休みして、夜ここに来たが、とても疲れた。ほぼ同等の労働を、集まったどの人もしていることだろう。

後日、今年度のラボは四回だったと聞いた。大変だなど苦情はないのかと尋ねると、「それどころか、保護者のほうから積極的に提案して動いてくれ、感謝している」という答えが返ってきた。ある時は、五歳児の母親たちが修了帽作りに来ていた。普段、その時間は勤めているが、休みをもらったそうだ。

## 園行事 (FESTA)

イタリアの幼稚園・保育園の大きな園行事は、クリスマスと年度末（六月）の二回。幼稚園の卒園・進級の会では、いつもの滑り台が月桂樹やラベンダーで飾り付けられていた。驚く私に「ママたちよ」と保育者。プロジェクトで全クラスに共通したオオカミ。子どもと保育者で作ったオオカミの旗がはためく園庭に、子どもも保育者もおそろいのオオカミのTシャツで集まり、父母の演じる劇を楽しみ、大人も子どもも共に輪になって踊った。その後、担任に名前を呼ばれて促され、拍手の中、照れ気味に、あるいは元気に滑り台のてっぺんに立つと、担任がママの作った修了帽をかぶせてくれ、修了証書を手渡す。担任の促しで高く挙げられた手に呼応するように会場から「ブラボー」「○○（子どもの名前）ー」の声。ビデオやカメラが構えられる中、子ども





は滑り台を滑り降りた。練習なんてない。好評を博したオオカミ役の父親は、この日も、その後わが子を迎えに来た時も、保育者や子どもに「オオカミ！」と声を掛けられ、園児にまわりつかれていた。

## 新たな園でも

新年度十一月初めから、私は別の保育園・幼稚園に通っている。保育園では、決定した両親代表にメールアドレスを知らせてほしいという張り紙が各クラスのドアの脇に張られていた。

図書の管理は保護者の担当で、親子・家族でのしおり作りのラボが行われ、新年度の貸出準備が整ったところだった。十一月下旬の幼稚園の玄関と各クラスのドアの脇にはクリスマスラボのお知らせが張り出された。そして、十二月最初の参観の日、ホールの天井いっぱいにおーナメントがつり下げられていた。写真を撮っている私に、通りかかった保育者やアウジリアが「どう？ ママたちよ」「きれいでしょ、

ラボよ」と言う。前の週、五歳児クラスで、当番が毎日、日付と曜日、天気を書き込んで作っていくカレンダーの空白が二日だけになって、「クリスマス月の月が来る！」の音があちらこちらから出た。私の脇で「この季節が一年の中で一番いちばん好き！家の中がすつごーくきれいになるの」と、いつになくはしゃいでいたアウローラは、「これ、私のママが作ったのよ！」と、飛び跳ねて手を伸ばして教えてくれた。

詳しく聞いていくと、フェスタの滑り台のアイデア、子どもと両親へのオオカミからの招待という、フェスタの案内状の粋な計らいは、保育者だった。しおり作りも「初めに見本を作って見せただけよ」と言うからには、保育者はそこに居た。オーナメント作りも、木の実や枝、麦、乾燥した豆・オレンジ・ザクロ・トウガラシ、シナモン、パスタなど、身の回りの多様な素材を、保育者は親以上に準備していた。「ママたちよ、両親よ」と言う、そのどこにも保育者の存在はあった。―次号はフィレンツェから―